

群 教 セ	G06 - 02
	令 2.275 集
	体育-小

自分なりの表現で運動課題に対する 解決策を伝え合う児童の育成

—他者との伝え合いを活発にするための指導の工夫を通して—

特別研修員 武田 健太郎

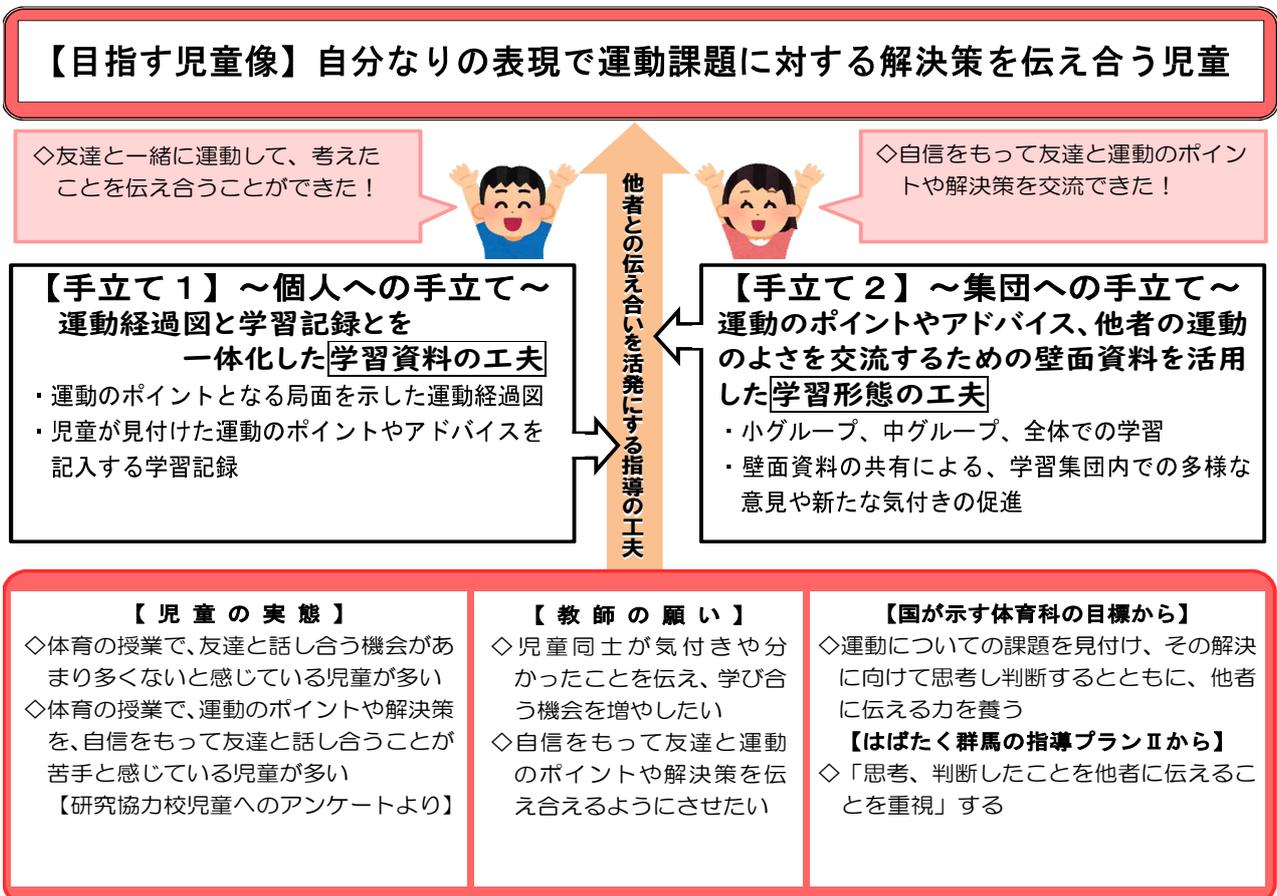
I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領（平成 29 年告示）における体育の目標においては、「(2)運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う」ことが示されている。また、はばたく群馬の指導プランⅡにおいても「思考、判断したことを他者に伝えることを重視」することが挙げられている。しかし、研究協力校での児童へのアンケート調査から、これまでの体育の授業で「友達と話し合う」機会はあまり多くなかったと感じている児童が多いことが分かった。さらに、体育の授業の中で自信をもって他者に運動のポイントや解決策を伝え合うことが苦手と感じている児童が多いことも分かった。

そこで、本研究では、体育の授業において自己の運動課題に取り組むことに加えて、他者の体の使い方や手足の動かし方について気付いたことや分かったこと、他者の運動のよさなどを、自己の経験や学習資料を基にして身振りを交えながら自分なりの表現で他者と伝え合うことを活発にするための指導を重視していく。こうした関わり合いの中で、児童は運動に対する楽しさや充実感を味わい、運動技能を向上していくことができると考え、研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

体育の授業において、運動のポイントや他者の運動のよさなどを、身振りを交えながら自分なりの表現で他者と伝え合い、運動に対する楽しさや充実感を味わいながら技能の向上に結び付けていくために、次のような手立てを実践する。

手立て1

運動経過図と学習記録とを一体化した学習資料の工夫

手立て2

運動のポイントやアドバイス、他者の運動のよさを交流するための壁面資料を活用した学習形態の工夫

手立て1では、他者の運動を見る児童の視点を明確にできるように、運動のポイントとなる局面を運動経過図で示したものを児童個人の学習資料とする。運動経過図を基にすることで、児童が互いに運動のポイントを見付け合い、身振りを交えながら自分なりの表現で自他の課題に対するアドバイスをし合うことができるようになると考えた。また、運動経過図と学習記録とを一体化することで、児童はこれまでの学習で見付けた運動のポイントやアドバイスを見返しながら、運動を行うことができると考えた。

手立て2では、小グループ(3、4人)、中グループ(6～8人)、全体といった交流する機会となる場を複数設定する。また、それぞれのグループでの交流を活発にするために、運動のポイントとなる場面を示した6枚の連続写真を壁面資料として用意する。壁面資料上に手立て1で発見した運動のポイントや自他の課題に対するアドバイスを付箋紙で貼り付け、他グループと共有できるようにする。小グループは、個々の学習資料を基にして、児童が互いの運動を見合う中で発見したことを交流するための集団とする。中グループは、課題解決の場ごとに壁面資料を掲示・共有し、二つの小グループがそれぞれ発見したポイントやアドバイスを記入できるようにすることで、より多様な意見や新たな気づきを交流するための集団とする。また、1単位時間ごとに行う振り返りは全体で行い、自己の課題や記録の伸びに児童が着目しながら、他者の運動のよさや本時の学習成果を共有する場とする。

このような学習資料と学習形態の工夫を通して、運動のポイントやアドバイス、他者の運動のよさについて、身振りを交えながら自分なりの表現で他者と活発に伝え合うことができるであろうと考えた。また、運動に対する楽しさや充実感を味わいながら、自己の課題とする運動のポイントの考察を行い、児童の運動技能向上にもつなげていくことができるであろうと考えた。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 運動経過図と学習記録とを一体化した学習資料を個々の児童に用意することで、運動経過図の動きを参考にしながら自身の運動感覚に基づく身振りや感覚的な言語、例示を用いて運動のポイントや自他の運動課題の解決に向けてアドバイスを積極的に交流するなど、伝え合いが活発になった。
- 壁面資料を二つの小グループに一つ用意することで、実際の交流は小グループで行われていても、一方の小グループが見付けたアドバイスを、他方的小グループが参考にして運動を行ったり、場を共有する中グループとしてアドバイスし合ったりするなど、児童同士の伝え合いの活性化につなげることができたと考えられる。

2 課題

- 交流の場面では、運動経過図や壁面資料の中から一部の動作を切り取って、アドバイスをすることが見られた。そこで児童がアドバイスを受けた一部の動作だけを先取りしてしまい、運動の連続性に意識が向きにくくなってしまうことがあった。目的とする動作に達するために、事前の動作はどうか、自身の体の中で意識している感覚やイメージは何かなど、ポイントとなる視点を含めた発問を教師が児童に繰り返し行うことが必要であると考えた。

実践例

1 単元名 「陸上運動 走り高跳び」（第5学年・2学期）

2 本単元について

本単元で扱う走り高跳びは、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを定めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができるようにすることを目標としている。また、自己記録の更新に向けて、自己の運動課題の解決のために繰り返し練習していく中で、互いの運動を観察し合い、どうしたらより高く跳べるようになるかアドバイスを交換し、児童の運動技能と運動意欲を向上させていくことができる運動である。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し、実践した。

目標	走り高跳びの学習を通して次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア 走り高跳びでは、その行い方を理解するとともに、試技の回数やバーの高さの決め方などのルールを決めて競争したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。 (知識及び技能) イ 自己やグループの能力に適した課題を見付け、課題に応じた練習の場を選んだり、自己や仲間の動きの変化や伸びを見付け、他者に伝えたりすることができる。 (思考力、判断力、表現力等) ウ 場や用具の安全に気を配り、友達と教え合い、励まし合いながら練習や競争に進んで取り組むことができる。 (学びに向かう力、人間性等)	
評価 規準	<知識・技能> 5歩～7歩程度の短い助走から踏み切り、はさみ跳び（またぎ跳び）で高く跳んでいる。 <思考力、判断力、表現力> 自分のめあてにあった練習の場を選んだり、自己や仲間の動きの変化や伸びについて学び合ったことを他者に伝えたりしながら、より高く跳ぶために課題解決や挑戦の仕方を工夫している。 <主体的に学習に取り組む態度> 場や用具の安全に気を配り、友達と教え合い、励まし合いながら練習や競争に繰り返し挑戦している。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーションを通して、単元や1単位時間の学習の進め方を理解し、学習の見通しをもつ。 ・試しの運動を行う。
追究する	第2・3時	<ul style="list-style-type: none"> ・走り高跳びの学習資料を基に、互いの試技を見合いながら運動のポイントを学習する。 ・自己の気付きや他者からのアドバイスを参考にして、自己の運動課題を把握する。
	第4・5時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習資料を基にして、自他の動きの変化や伸び、運動課題の解決策について、グループで意見を交換し合いながら学習する。
まとめる	第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・学習してきたことを生かして、走り高跳び大会に取り組む。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全6時間計画の第5時に当たる。本時では、学習資料や壁面資料を基にして、他者と運動課題に対する意見を交換し合いながら練習に取り組む中で、自己や他者の動きの変化や伸び、運動課題の解決方法を見付け、他者に伝えることができるというねらいを達成できるようにするために、次の手立てを具体化した。

手立て1

運動経過図と学習記録とを一体化した学習資料の工夫

- ・走り高跳びの運動のポイントとなる局面を運動経過図で示したものを児童個人の学習資料として用意する。
- ・個々で発見した運動のポイントや自他の運動課題へのアドバイスを学習資料に記入できるようにする。

手立て2

運動のポイントやアドバイス、他者の運動のよさを交流するための壁面資料を活用した学習形態の工夫

- ・児童が個々の学習資料を基にして互いの運動を見合う中で発見したことを交流するために、小グループを作る。
- ・学習の場付近に、二つの小グループに付き一つの壁面資料を掲示し、色付き付箋紙にそれぞれのグループが発見したポイント（青色）やアドバイス（赤色）を記入し貼り付けていくことで、中グループでの交流ができるようにする。
- ・振り返りでは、他者の運動のよさや本時の学習成果を全体で共有する時間を確保する。

4 授業の実際

本時は、学習資料を基にして、他者と課題の解決策について意見を交換し合いながら練習に取り組む中で、自己や友達の動きの変化や伸び、課題の解決方法を見付け、他者に伝えることができるようになることをねらいとした。授業の展開は、「①小グループ内で個人の運動課題の共有→②試技・観察→③意見交流」という流れで行った。①では、運動のポイントと個人の試技を比較し、前時までに発見した運動課題を小グループ内で共有する。②では、小グループ内で役割をローテーションしながら、試技と共有した課題に対する観察を行う。③では、観察して気付いたことや自他の運動課題に対する解決策などを試技者と観察者で意見交流をする。

(1) 手立て1 運動経過図と学習記録とを一体化した学習資料の工夫

単元の導入時より、運動経過図と学習記録とを一体化した学習資料を個人の手元に用意し、資料を基に個々で発見した運動のポイントや自他の運動課題に対する解決策を記録してきた。初めに小グループ内での運動課題の共有の場面では、個々の学習資料の振り返りを行った。これまでの個人の記録(図1)と運動経過図を見ながら、本時に運動のどこを他者に観察してもらいたいのか、交流を図りながら、視点を共有することができた。小グループでの試技・観察や交流の場面では、学習資料に記録されている運動のポイントと運動経過図とを照らし合わせて、踏切や空中姿勢の姿勢をまねし、身振りを使って他者へのアドバイスをしたり(図2)、手拍子によってリズムを表現したりする児童の姿も見られた(図3)。

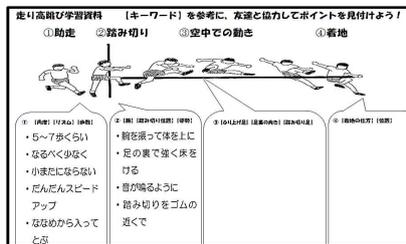


図1 運動経過図と学習記録とを一体化した学習資料



図2 踏切時の腕の使い方を身振りで表現する児童



図3 手拍子によって踏切リズムを表現する児童

(2) 手立て2 運動のポイントやアドバイス、他者の運動のよさを交流するための壁面資料を活用した学習形態の工夫

学習の場には、児童がこれまでの学習で発見した運動のポイントやアドバイスを記録した壁面資料を掲示した。壁面資料上の課題となる場面に氏名を書いた付箋紙を貼り、小・中グループで個々の課題が共有できるようにした(図4)。また、小グループで試技を行い、新たに発見したポイントやアドバイスを色付き付箋紙に記入し、壁面資料上へ貼り付けるようにした(図5)。

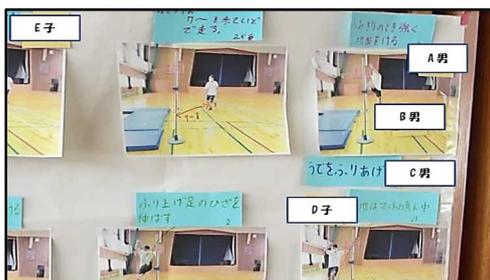


図4 小・中グループ交流のため、個人課題を示す



図5 意見交換で出されたポイントやアドバイス

グループによる話し合いをしやすいように、課題解決の場と場の間やマットの周囲に十分に間隔を取り、運動を観察したり交流したりするためのスペースの確保を行った。そのスペース付近の壁面に資料を掲示することで、試技を行った後、学習資料を基にして身振りや運動感覚の言語化をしながらアドバイスをし合ったり、個々の運動課題に対するアドバイスを壁面資料上に適時記録したりする姿が見られた。

グループでアドバイスし合う児童の発言	
1 踏切時の腕の使い方を考える児童	2 振り上げ足を見合う児童
S1: 踏み切るときに腕を上げよう。	S1: 振り上げ足を伸ばして跳んでいるか見ていて。
S2: いい感じに(腕が)上がっていたよ。	S2: 跳べているけれど、膝が曲がっているね。
S1: 腕が上がっていても跳べないな。	S2: もう少し、膝をピンと伸ばして、足の裏を見せるようにすると思うよ。
S2: もっとグンッと勢いをつけて上げてみたら?	

また、二つの小グループに付き一つの壁面資料を掲示したことにより、他のグループが記録したことを自グループの児童の課題解決の参考としている様子が見られた（図6）。運動課題の解決に向けた小グループ内での気づきの交流に加え、他の小グループの気づきを参考にして試技を行ったり、運動課題の解決に向けて児童同士でアドバイスし合ったりするなど、中グループとしての活発な交流へと発展していた。

授業の終末には、他者の運動のよさや本時の学習成果を全体で共有する時間を確保した。本時の課題解決の際に、相互観察や学習資料を基にしたアドバイスの交換を取り入れたことにより、児童の振り返りからは、「友達がここから踏切をしたほうが良いよと言ってきて、いつもより跳べた」「友達が、助走が小またにならないコツを教えてくれた」といった児童同士の関わり合いが生まれた記述が見られ（図7）、運動に対する楽しさや充実感を味わいながら運動し、技能を向上していくことに結び付けることができたと考えられる（図8）。



図6 踏切の課題を解決するための中グループでの交流

振り返りで書いた児童の記述（抜粋）	
・	友達がここから踏切をしたほうが良いよと言ってきて、いつもより跳べた。
・	友達が、助走が小またにならないコツを教えてくれた。
・	フワッと跳んでいた人がいたので、まねしたい。
・	アドバイスやいいところ、対策がたくさん考え合えた。
・	友達のアドバイスを素直に聞いて練習している人がいて、いいなと思いました。
・	みんな足も手も上がって、上手に跳べていた。
・	アドバイスがもらえたので、それを生かしたいと思った。

図7 振り返りで書いた児童の記述

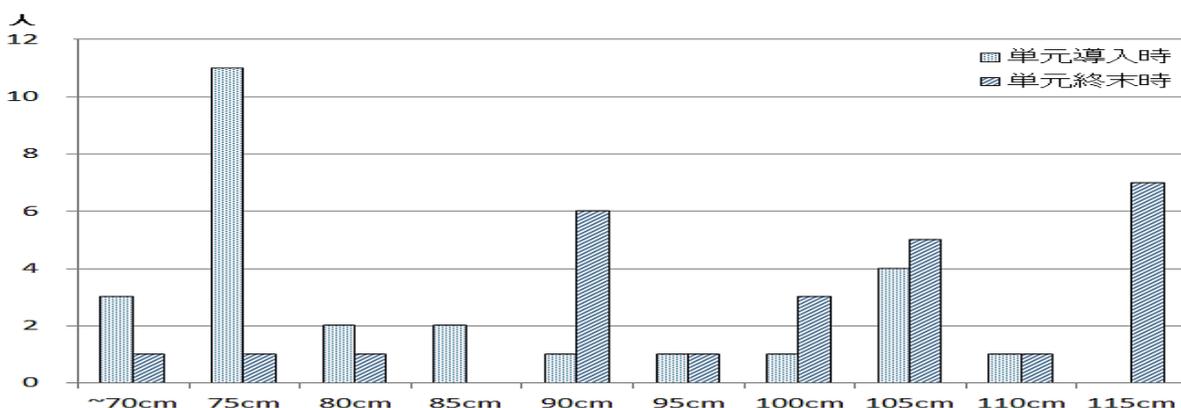


図8 単元導入時と単元終末時における児童の走り高跳びの記録の変化

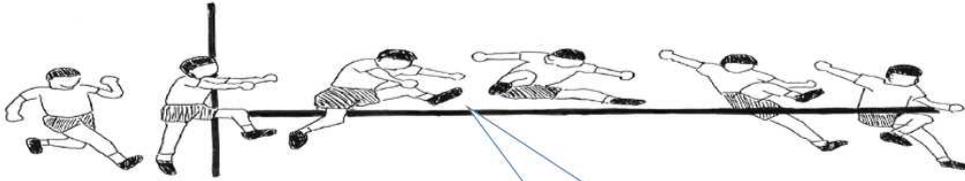
5 考察

学習資料に、単元を通して発見した運動のポイントやアドバイスを記録したことにより、運動経過図や学習記録を基に他者の試技を観察し、身振りを交えながら自分なりの表現でアドバイスをし合う姿が見られた。また、課題解決の場ごとに壁面資料を使い、個人の学習資料を基に発見したポイントやアドバイスを記入していくことで、他の小グループが見付けたアドバイスを参考にして試技を行ったり、中グループ内でアドバイスし合ったりするなど、特別な時間を確保することなく児童の交流を広げることができた。実際の交流自体は小グループで行われていながら、互いに参考となる部分は中グループで共有されていたため、児童同士の伝え合いの活性化や運動技能の向上につながることができたと考えられる。これらの学習資料や学習形態の工夫は、今回扱った単元だけでなく、他の運動領域においても有効であると思われる。

一方で、本時では学習資料に基づいて他者の運動課題の解決に向けてのアドバイスをすることが中心となったため、児童が手本となる動作に近づけようと運動の一部の動作を先取りし、運動の連続性を見失う場面が見られた。児童が意識している体の部位や動かし方は何か、動作を別の動きで例えると何がわかるか、目的とする動作に達するために事前の動作はどうするかなど、教師が具体的な発問を児童に行い続けることが必要であると考えられる。

走り高跳び学習資料 【キーワード】を参考に、友達と協力してポイントを見付けよう！

- ①助走 ②踏み切り ③空中での動き ④着地



① 【角度】【リズム】【歩数】

② 【腕】【踏み切り位置】【姿勢】

③ 【ふり上げ足】【足裏の向き】【踏み切り足】

④ 【着地の仕方】【位置】

走り高跳び学習の記録

5年組 番名前

回	めあて	めあてに対するふりかえり	友達の良いところ・まねしたいところ	記録と得点	他のグループが見付けたポイント
1				cm	
				点	
2				cm	
				点	
3				cm	
				点	
4				cm	
				点	
5				cm	
				点	
6				cm	
				点	

「めやすの記録」は、【110+（身長÷2）-（50m走のタイム×10）】で計算する。

めやすの記録	<21	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	61-
得点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

目安の記録

cm

【記録法】

跳ぶ+高く → 見る欄を伝える → 見る伝える → くりかえし
4人組はもう一度見る伝える